



Newsletter

Institute for Legal Studies

Kanagawa University

No.30

September, 2023

巻 頭 言

ロシアの軍事侵攻雑感

江口 隆裕

昨年2月に起きたロシアによるウクライナへの軍事侵攻は衝撃であり、様々なことを考えさせられた。第一に、この現代社会において、何の予告もなしに、突然、多数の戦車が国境を超えて隣国に侵入し、その国民を殺戮するということが実際に起こったのである。第二次世界大戦で何千万人もの命を犠牲にしたにもかかわらず、戦後、それを何ら教訓化せず、各国は軍備を増強し続け、さらには核開発を進めてきた。しかし、多くの人々は、心のどこかで、これらの軍備増強はあくまで威嚇のためであり、アフリカやアジアなどでの局地的な武力衝突は別として、先進国が実際に武力を行使することはないだろうと思い込んでいたのではないかと。ところが、かつてのG8構成国であり、国連の常任理事国でもある大国ロシアが、隣国ウクライナに対して実際に武力を行使したのである。これによって、この思い込みが本当に思い込みでしかないことが明らかとなった。すなわち、いずれの国も、その国民も、強大な軍備を有する大国が他国に向けてその武力を行使するかもしれないということを前提に、自国と近隣諸国そして世界との関係、また、自国内の軍備を中心とした体制のあり方を考え直さざるを得なくなったのではないかと。これは、第二次大戦以降80年近く続いてきた、軍備は威嚇のためであるという政治的

思考枠組みを根本から転換することを意味する。特に日本の場合には、憲法前文で謳っている「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持」という平和主義への決意の前提が覆されてしまったことになるのではないかと。

第二に、ロシアがなぜウクライナを侵略したのか、その理由が未だ理解できない。ウクライナがNATOに加盟するとロシアの安全が脅かされるからと言われるが、ウクライナは、NATOどころか、EUにもまだ加盟しておらず、また、昨年2月の時点でロシアの安全保障が脅かされたという具体的な事実の摘示もない。さらに、プーチンという回帰主義的権力主義者がロシア帝国の復活を望んだからとも言われるが、ロシア帝国を復活させるために隣国を侵略することが国際法上許されないことは、さすがのプーチンといえども十分に理解していたはずだ。

第三に、この違法な侵略は、プーチンの独断で行われたものではなく、これを支持する勢力ないし民意がロシア国内に一定数存在するということである。それがロシア国民のどの程度の割合を占め、どの程度の政治力を有するのかは不明だが、それらプーチン支持勢力の人々がなぜ今回の軍事侵攻を支持するのか、その理由もはっきりしない。これは第二の点に関連するものだが、大統領と国民という立

場の違いを考慮すると、国民には、プーチンの判断理由とは別の理由があるのかもしれない。さらに、国際社会でも、ロシアの違法行為を非難せず、さらには支持する国が少数ながら存在する。

これに関連し、最近、民主主義国家 vs. 権威主義国家という図式で国家を分類し、ロシアは後者であるという議論を耳にするが、プーチンは、生来の身分に基づいて国家の最高権力者の地位に就いた訳ではなく、国内の民主主義的手続に従って現在の地位を獲得したはずである。むしろ問題は、民主主義と言ってもその存在形式が多様であることにあり、その中で、いわゆる民主主義国家と権威主義国家との分水嶺は何かを明らかにすべきであろう。

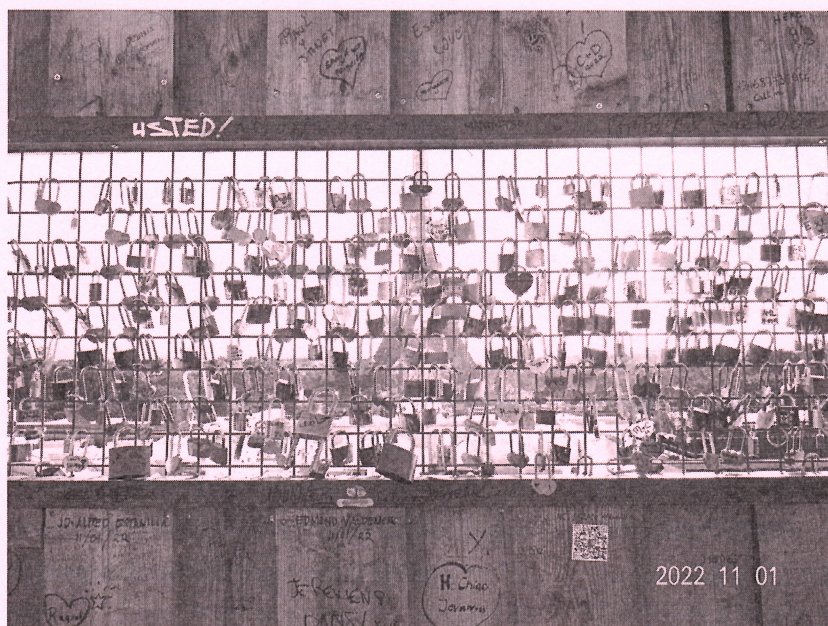
最後に、今回のロシアのウクライナへの軍事侵攻は国際法上明白に違法であり、ロシアが「ならず者

国家」であるのなら、同じようなことを二度と起こせないよう、国際社会が力を合わせてロシアに武力制裁を加え、ロシアの軍備を徹底的に破壊するのが正義に適った選択なのではないか？ 国連が機能しないのなら、別の枠組みを考えれば良い。しかし、そのような議論が出てこないのは、もしこの選択を実行するとなると、それは第三次世界大戦の引き金を引くことにつながり、その結果、世界最大の核保有国ロシアが核兵器を使用するようなことになれば、ウクライナだけでなく人類全体の存亡に関わる事態を引き起こしかねないからであろう。したがって、ロシアの行為がいかに違法で非人道的であっても、欧米諸国や日本は、ウクライナという国を通じた間接戦争を行うしかないであろう。もしそうであるとするなら、核を大量に保有するというロシアの軍

事戦略は十分に意味があったことになる。さらに、今回のロシアの軍事侵攻を手本として、他の「ならず者国家」も、ロシアと同じ軍事戦略を指向するかもしれない。

果たして、「法の支配」は、「力による支配」に打ち勝つことができるのだろうか？

(法学部名誉教授)



エッフェル塔は愛と平和を求める人々に囲まれているのだが…